

平成29年度 事業報告書

法人の名称 特定非営利活動法人
ワーカーズ・コレクティブ
ケアびーくる

1 事業の成果

1) 単独では移動が困難な市民が生活の質を高められるよう、市民が持つリソースを発揮して「新しい公共」の一翼を担いました。

参加型福祉の実現と地域に不可欠なサービスの存続を図るため、参加者の拡大に努めました。

NPOである利点を生かして、利用者ニーズに柔軟に対応して移動支援活動を行いました。

依頼にはできる限り応え、当日依頼にも可能な限り対応しました。通院はもとより、買物やリフレッシュ、お花見やお墓参りなど、今年も多くの利用に応えることができました。設立当初から利用されていた10人近くの方の逝去が続き、時の流れを感じた1年となりました。

- 3名の新たな運転会員の参加がありました。法定の「運転者講習会」を受講し、内部研修を経て2名が主力メンバーとして活動しています。
- 長年のメンバーが11月末で2名退会しました。運転の担い手不足は引き続き深刻で、ワークの担当決めはぎりぎりのことが多くありました。事務局の慢性的な人手不足も相変わらずで、会員の充足は引き続き大きな課題です。
- 会員は3月末現在42名です。日々の活動の参加者は23名（内、運転会員19名）、セダンの使用車両登録は16台でした。
- 軽微な自損事故がありましたが、人身事故は今年度もゼロでした。
- 家族の介護・育児や他の仕事などとの掛け持ちのため、常時活動に参加できるメンバーが少ない状況が続いています。しかしながら、依頼には極力応えるようシフトを調整するなど努めました。
- 昨年に比べ活動実績は、利用者実数で11名少なかったものの利用者延べ人数(件数)では130人(件)、利用回数は285回、総時間数は383.75時間の増加でした。

ケア事業では利用者実数で25名、利用延べ人数(件数)では119人(件)、利用回数は280回、総時間数は313.25時間の増加でした。

福祉車両利用助成事業に関しては、わずかに増加しました。

2) 利用しやすい移動サービスを実現するため、大和市・神奈川県・国との協働や他団体・他機関との連携をすすめました。

大和市とは引き続き協働事業を実施し、利用者など市民の方々に貢献しました。

- 協働事業を開始してから 14 年目となります。
- 協働事業協定書にもとづき、大和市からは引き続き、福祉車駐車場（4 台分）およびストレッチャー等の保管場所、負担金の提供を受けました。
- 毎年の「広報やまと」への掲載のほか、昨年度に続き「出張！ボランティア総合案内所」にメンバー募集の情報を提供しました。「広報やまと」の掲載を見ての利用者の加入もありました。
- 大和市福祉車両利用助成事業に関する受託事業を引き続き行いました。税理士への相談や他市の調査も行いました。必要に応じ、担当課との調整を行っています。
- 市が設置している「大和市地域公共交通会議」にケアびーくるからメンバーが参加しました。
- 介護保険制度の改正に係る生活支援サービスの拡充など、新しい総合事業と移動サービスについての学習会などに参加しました。
- 市内で開かれた、かながわ福祉移動サービスネットワーク主催の認定運転者講習会に講師の派遣、車両提供を行いました。
- 地域福祉の充実に関しては、以下の組織やネットワークに引き続き参加し、連携・交流を深めました。
 - ・コミュニティ・オプティマム福祉地域協議会 大和
 - ・神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会
 - ・NPO 法人かながわ福祉移動サービスネットワーク
 - ・大和市民活動センター

3) ニーズに沿った質の高いサービスが提供できるよう介助研修や共育に努めました。

車両運行における利用会員の「安全と安心」を確保するため、安全運転と適切な運行管理に力を注ぎました。

様々なニーズにきめ細やかに対応できるよう、運行管理者、運転会員で情報共有を図っています。必要に応じ、利用会員の担当ケアマネなどとも連絡を密にとるようにしました。利用者の「安全と安心」の確保に努めました。

- 適宜、メンバーが講習会や研修に参加し、日頃のワークに生かしました。（安全運転講習会、学習会等）
- 新たな 3 名の運転会員のため、同乗研修をはじめ内部の研修を進めました。必要に応じ、ストレッチャーの扱い、福祉車両の車いす固定操作の再確認等の研修を個別対応で行いました。
- ワーカーズ想に講師を依頼し、会場もお借りして、ベッドから車いすへの移乗研修を

行いました。技術を確実なものとするため、引き続き内部研修も行っています。

- 冬季の安全確保のため、福祉車 2 台（てのひら号、ハイエース）にスタッドレスタイヤを装着し、雪の日対策を行いました。
- 毎月の定例会で、安全で安心のサービス実現に向けて情報交換を行い、きめ細やかなサービス提供に努めました。受講した安全運転研修の内容やヒヤリハットの共有も図りました。
- 災害（大地震等）に遭遇した場合の対応についてワークショップを行い、処置要領を作成しました。福祉車両に処置要領、大和市防災マップ、水、防寒レスキューシート、簡易トイレ、救急セット等を備えました。
インフルエンザやその他の感染症対策として引き続き、各車両にアルコール消毒液を備え、サービス終了時の消毒を行いました。
- メンバーの働きかけにより、セルスター工業(株)から福祉車 4 台分のドライブレコーダーの寄贈がありました。ヒヤリハット等が発生した時の原因の究明や、映像を残すことにより各自の運転の傾向等について機会を捉え勉強会を行い、安全運転に努めています。
- 運行管理は日ごろから連絡を密にとり、正確かつきめ細やかな対応ができるよう努めました。

4) 今後の会の存続を見据えて活動を進めてきました。

- 利用拡大に向けて、リーフレットの内容をより分かりやすい表示に変更しました。
- また、利用拡大とメンバー募集を視野に、「ケアびーくる通信」を 4 回発行しました。できるところはメンバーがポスティングするなど、利用者や事業所などに配布しました。事業所を訪問しながら、手渡しするなど広報に努めたことで、新たな問い合わせや依頼につながりました。
- 担い手拡大については、メンバーが常時、新しい仲間づくりに心がけました。また、市役所掲示板や福祉車に、常時、メンバー募集のポスターを掲示し、メンバーの入会につながりました。問い合わせもありました。
- 時宜を捉え、リーフレットやチラシを配布しながらケアびーくるの活動をアピールし、利用拡大とメンバーのお誘いに努めました。
- 福祉車両はセレナが 15 年目、(新)キャラバンが 13 年目、ハイエースが 9 年目、てのひら号が 3 年目になります。福祉車のあり方について検討を進めています。
- 年間を通じて経費削減に努めました。
- 助成金への応募は、県共同募金配分金に加え、かながわ土地建物保全協会ライフフリー事業助成金、麒麟福祉財団、日揮福祉財団、イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン等から助成をいただきました。また、個人からの大口寄付もあり、併せて事業外収入の伸びへとつながり、収支改善の要因の一つとなりました
- 中・長期計画は随時見直しました。

5) 毎日の定期メールで情報を共有し、こまめな情報交換と問題解決に努めました。

- 理事会と定例会を毎月開催しました。定例会はメンバー相互の情報交換の場とし、日々
の問題点を共有するとともに、解決に向け話し合いました。
- 定例会の議事録をメールで活動会員全員に送信し情報の提供を行い、共有化を図って
います。

6) 地域への情報提供をおこないました。

- キリン財団から広報に対する助成を受けたこともあり、印刷を外注して「ケアびーく
る通信」を4回発行し、ホームページの充実、ブログ更新に努めました。
(ブログ更新：12回)
- 朝日新聞の桜ヶ丘インフォメーションに広告を掲載して頂きました(掲載：7回)。記
事を見ての新たな利用者の加入がありました。

2 事業内容

特定非営利活動に係る事業

① 外出介助等のサービス事業

ア ケア事業

- ・内容 通院入退院、通所通学、買い物等の外出介助および付き添いサービス
- ・日時 通年
- ・場所 大和市および隣接した市区
- ・従事者人員 23人
- ・対象者 移動制約者 245人
- ・支出額 9,841,941円

イ 大和市福祉車両利用助成事業に関する受託事業

- ・内容 大和市福祉車両所施事業対象者における外出介助及び付添サービス
- ・日時 通年
- ・場所 大和市および隣接した市区
- ・従事者人員 23人
- ・対象者 移動制約者 60人(のべ利用者66人)
- ・支出額 2,537,225円

② 地域に向けて研修、啓発をはかる事業

ア・内容 ケアびーくる通信の発行(年4回)

ホームページの充実、ブログ更新(年12回)
新聞折り込みチラシへの広告掲載(年7回)

- ・日時 随時
- ・場所 大和市内
- ・従事者人員 7人
- ・対象者 移動サービスを受けたことのない方および、そのご家族
- ・支出額 121,244円

イ・内容 市内で開かれた、かながわ福祉移動サービスネットワーク主催の運転者 講習会に講師の派遣、車両提供

- ・日時 平成28年5月
- ・場所 大和市内
- ・従事者人員 2人
- ・対象者 運転者講習受講者 50人
- ・支出額 0円

③ その他、この会の目的を達成するために必要な事業